

台風19号などの災害で痛ましい被害が出ている。昨年も農産物被害や製造業のサプライチェーン（部品の調達・供給網）の断絶など、経済的ダメージが大きく、このコラムでも書いた。今年には土砂災害、堤防の決壊などさらに広域で甚大だ。最優先は被災者の支援で、傷んだインフラの修復も急務だ。政府は復旧支援のために2019年度補正予算を検討、厳しい財政事

川本 裕子（早稲田大大学院教授）

情の中で、効果的な措置を講じるための知恵がますます重要になる。

多摩川の近くの学校に通っていた私の知人は、子供

に言われた記憶がある。

改めて行政が出している

ハザードマップを見ると、

危険度が高いとされる区域

で実際に水害にあった場所

## 自然にあらがうな

の頃から「怖い川」と教えられていた。自分も子供の頃、坂の多い東京で、池や川、沼、谷、橋などの字が入った地名の場所は水に関係が深く、注意しなさいと祖母

は多い。今回の台風は史上

まれにみる雨量だったが、

伝承やデータにより水害は

ある程度予見できると思わ

れる。

しかし、浸水した老人ホ

ームの中には、本来の定義

が「市街化を抑制すべき区

域」である市街化調整区域

に建築されたものもあつ

た。過去の地震時に液状化

した場所に、また新しく住

宅が建築されて、地震で再

度、被災したという例もあ

る。

堤防やダムなどの防災の

ための施設（ハード）は、

災害の起きやすい地域にで

きるだけ住まないルール

（ソフト）とセットになつ

て、初めて生かされる。資

産価格への影響など難しい

問題もはらむので、一筋縄

ではいかないかもしれない

が、災害の記憶が新しいう

ちに改めて土地利用のガイ

ドラインの在り方を議論す

べきではないか。

命を守るためには、開発

への規制強化も必要だろ

う。政府が取り組む国土強

靱（きょうじん）化は、自

然にあらがってはいけない

能だと思ふ。